

東京都リハビリテーション病院

# おんハフォーラム

(発行) 東京都リハビリテーション病院  
医療福祉連携室

〒131-0034 東京都墨田区堤通 2-14-1

TEL : 03-3616-8600

FAX : 03-3616-8699

<http://www.tokyo-reha.jp>

第13号

H20年5月30日



2008年 三社祭より  
撮影協力 瀬川陣市様

## 就任挨拶

東京都リハビリテーション病院 事務長 廣田 正志

本年4月、東京都リハビリテーション病院事務長に就任しました。これまでは急性期病院を中心に勤務してまいりましたが、回復期リハビリテーションの現場を経験して、患者さんにとってリハビリテーション医療を継続して受けることの大切さを実感しているところです。このためには医療連携、すなわち急性期病院に続く病病連携や病診連携、更に介護分野との連携も必要であると思っています。当院では、今年度、脳卒中の地域連携パスの取組みを進めておりますが、新たに墨田区からの受託事業として、「墨田区在宅リハビリテーション支援事業」を実施すべく墨田区や地域の先生方との協議を進めているところです。当院が、この地に開設されてから18年が経過しておりますが、これまでの実績に加え、より一層の医療連携の強化と地域リハビリテーションの諸事業の推進に努めますとともに、研究、開発や情報発信にも積極的に取り組んでまいりますので、これまで以上のご指導、ご支援をお願いいたします。

## 東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

# 19年度地域リハビリテーション支援事業進捗状況ご報告

## 1. 区東部地域リハビリテーション連絡協議会が開催されました。



平成20年5月28日(水曜日)すみだ産業会館にて実施されました。当院院長の林・史を会長として、墨田・江東・江戸川区の医師会や行政、病院訓練士、訪問看護師、ケアマネージャやリハビリテーション関連団体の方々と事務局合わせて、27名の大きな会議となりました。

林会長からの挨拶で始まった会議は、地域リハビリテーション支援センターの事業より派生している、区東部地域リハビリテーション連絡協議会発足の経緯について説明がありました。また、幹事会活動に於いては地域リハビリテーションのシステム考案や活動広報、当協議会が地域リハビリテーション事業の中核を担う組織であることが、再確認されました。

その後は、事務局より20年度に実施予定の協議会事業説明を致しました。具体的には墨田、江東、江戸川区において、『リハビリテーションマップを作成すること』『当協議会の総会的な催しの講演会を開催すること』『小部会を立ち上げ具体的な事業相談を行うこと』『当協議会のホームページを作成すること』等が、確認されました。リハビリテーションマップに関する部分では、賛否両論の意見交換がなされ、「現状の状態よりもより細かい情報が記載されたマップがほしい。」「訓練士などの具体的な人員配置がマップで検索できれば理想的」等の様々なより具体的な意見交換がなされました。

意見交換では各区の取組状況や地域リハビリテーションに必要な事項は何であるかなど、様々な意見が飛び交いました。具体的には、「各区により回復期病床数の偏りがあり、病床が少ない区でもシームレスなリハ連携ができるような社会資源調査の実施」「小児や難病疾患患者に対する地域リハビリテーションフォロー」「障害と介護保険間の制度切替調整の難しさ」「行政サービスと医療サービスに於けるリハビリテーション」等がありました。今会議で洗い出された問題点などを来年度、事業計画案策定時に、生かしより活動的な協議会にする事が確認されました。

## 2. 高次脳機能障害者支援地域ネットワーク事業

医療福祉連携室 地域リハビリテーション科 MSW 西原 大助

H20.3.17 地域リハビリテーション支援センター事業の一環として、「第1回 区東部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会」を当院にて開催いたしました。(区東部の二次保健医療圏:墨田・江東・江戸川)当連絡会は、地域の医療・保健・福祉の支援ネットワーク構築を図るために東京都心身障害者福祉センターが事務局、二次保健医療圏の地域リハビリテーション支援センター(当院)が中心となり運営しております。自治体、医療機関、当事者・家族会の実務者、計35名が出席し高次脳機能障害者の支援や取り組みについての情報交換の場となるネットワーク作りの第一歩を踏み出しました。

当院内では、連絡会の発足を機に、「院内の高次脳機能障害者への支援のあり方の検討」、「高次脳機能障害の臨床研究」、「院内、院外への講習会等の広報活動」などを活動内容とし、院内・院外のネットワーク作りを目的に「さくら COZY(コージー)倶楽部」を立ち上げました(現在は院内のOT、ST、PSY、MSWの代表者で構成しています)。これまで



携帯用会話補助装置のデモの実施や高次脳機能障害に関連する講習会等について、院外広報を行って参りました。院外広報の成果もあり、順次皆様の参加要望も増えつつあります。今後はその皆様方も交えてネットワーク作りの一環となる、研修会、勉強会等を構築して参る予定です。

\* 「さくら COZY 倶楽部」の活動に興味のある方は、「地域リハビリテーション科」までご連絡ください。

## 都リハのお食事係?!

栄養科と言えば「食事を作る部門」と思われるでしょうか？栄養士の仕事としてはそれだけではありません。今回は栄養科のお仕事を少し紹介いたします。

当院が開院されて以来、1日3回休むことなく食事を作り続けておりますが、調理担当は委託業者の皆様です。この4月に担当業者の変更がありまして、栄養科は今リセットの状態です。気の抜けない緊張の毎日を過ごしています。

実際に調理は致しませんが、献立を考えるまでは病院職員の仕事です。診療報酬上の決まり事や行事食、材料費(最近の食品価格の暴騰には途方に暮れています)、嗜好調査、調理工程、衛生管理等々、考慮すべきことが多くあります。更に嗜好の問題、栄養状態、嚥下など食形態の問題と、個別に対応しなければならぬケースが必ずあります。自分で直接確認することも必要ですが、やはり看護部をはじめ病院スタッフからの情報提供や協力で個別対応も成り立っているのだと思います。

正直申しますと、前述のような縛りがある中で個別に献立を考えることは大変で嫌になってしまうこともあります。嚥下食の段階が上がっていったり(改善)、摂食量が良くなって

## 管理栄養士主任 渡辺真紀

いったりするとそんな苦労も吹き飛んでしまいます。

食事は「おいしい」か「まずい」しか無く答えも明確。

苦情もあり、気持ちが滅入りそうなこともあります。患者様からの「おいしかったよ」が何よりもうれしく、元気が貰えるような気がします。



メッセージカード作成や  
折り紙等の内職もします



講演会場(上) 懇親会場(下)



## 地域医療連携の会が開催されました

平成20年4月23日地域医療関係者が95名集まり、当院にて地域医療連携の会が開催されました。本年度で3回目を迎えます地域連携の会は、地域に開かれた病院を目指して、交流や情報交換(公開)の場となるように、平成17年より開催されております。

前半は運動療法室にて講義形式の連携会を実施し、院長の林・史の挨拶、副院長柳原幸治から当院の事業説明や患者様受入状況等について話を致しました。その後、首都大学東京の渡邊修教授を招き基調講演会として高次脳機能障害に関する講演会の実施となりました。講演会では高次脳機能障害に関する定義、診断基準、実際の患者様の画像と共に、治療の成果など詳しくご説明があり、皆様興味深く聴講されておりました。

後半は場所を移し懇親会形式で、東京都医師副会長内藤先生やすみだ医師会長鈴木先生、江戸川区医師会長井上先生のご挨拶を契機に、皆様が交流を深めておられました。中盤では東京都リハビリテーション病院医療連携の会名物となりました、医局が一堂に会す医師紹介を行いました。当院の情報を知っていただき、多くの出席者が顔の見える連携に、楽しいひとときを過ごされおられ、有意義な連携の会となりました。ご参加いた

いただきました皆様に、改めまして感謝申し上げます。

## 災害トリアージ訓練を実施

当院は災害時医療拠点に指定されており、近隣で大きな地震や事故などが発生した際には、患者様受入施設としての役割を持ちます。

今般、災害時の救急トリアージを職員全体で再確認の為、平成20年3月24日に白鬚防災地区の救急医療担当の白鬚橋病院の石原哲院長が来院され、講演をしていただきました。

講演内容を前半講義、後半実技と分けて実施いたしました。途中で、記憶にも新しい福知山線の脱線事故を事例として、実際の現場の様子などを踏まえて講演いただきました。後半の実技では鐘ヶ淵駅にて、列車脱線事故が発生し怪我人が大量に発生し、地元医師会より出征依頼があったとの過程の下、タグを利用してのトリアージ実習を行いました。職員が患者役と医療者役に分かれ、実践しながらの負傷者対応をし、治療の緊急性が高い方と低い方を分別タグにて類別しました。

事故は何時発生するか予期できることではありません。事故が発生しないことを願いつつ、不測の事態に備えての訓練や研修を行い、地域の皆様と共に医療の安心を提供して参ります。



指揮を執る石原先生

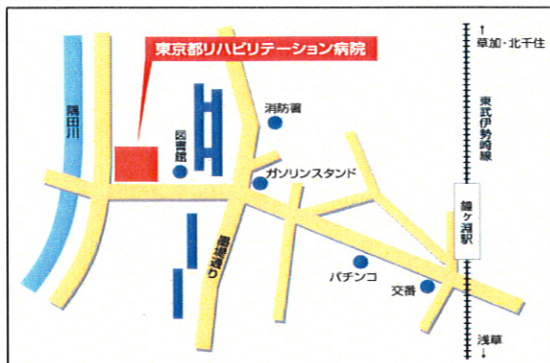


## 赴任医師紹介【1 出身大学 2 指定医・認定医・資格など 3 プロフィール】

### 医員 牛場直子（うしば なおこ）リハビリテーション科

1. 藤田保健衛生大学医学部医学科
2. 日本リハビリテーション医学会専門医、義肢装具等適合判定医
3. 平成20年4月より赴任いたしました。3年前まで勤務していたこともあり、当時拝

見させていただいていた患者様のお顔を拝見すると、お元気で過ごされていたかと気になることもあります。それぞれの方が抱える問題を一緒に考え、在宅復帰、社会復帰に向けていい方向へ進んでいけるようにしたいと思います。よろしくお願いいたします。



### 東京都リハビリテーション病院 交通案内

- （電車）東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅 下車徒歩7分
- （バス）両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院（路線番号：墨38）」行き（約30分）終点下車
- （お車）首都高速六号線堤通ランプ下

本誌に関しますメールでのお問い合わせやご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

[renkei-ito@tokyo-reha.jp](mailto:renkei-ito@tokyo-reha.jp)

東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき（社）東京都医師会が運営する病院です。